

2019年度事業報告

保全団体サポート事業

会としての予算がなく人手も不足している中で、効率的に活動し成果を上げるべく努力しました。

【調査活動とデータベースの構築】

棚田ガイドブック制作により得られた新たな情報を含め、情報の整理を行いました。

【相互交流の場の創出】

2019年10月に山口県長門市で行われた全国棚田サミットでは、棚田地域振興法が制定されたことを機に特別分科会を設定し、法案に詳しい農水省・松本氏の解説をいただきました。急な企画だったにもかかわらず、保存会を中心に参加者は50人以上。



12月に行われた「エコプロ2019」は、全国棚田連絡協議会や全国各地の棚田保存会と協力し「日本の棚田共同展示コーナー」として6度目のアピール活動を行いました。中央に広場をレイアウトし、その広場での新しい参加者による試みや、ブースでのインタビューなど今までにない展開が出来ました。一方で改良点も見えてきました。また「酒めぐり」は常連さんも来場し、人気コーナーとなりました。棚田地域振興法を踏まえた「ナイトセミナー」は好評。本企画の協賛・協力については更なる営業活動が必要と考えます。制作スケジュールが押しがちになってしまった点も改善したいです。

都市住民向けの普及啓発事業

現地活動、棚田オーナー制度紹介サイトの更新、旧暦棚田ごよみ販売などの活動に取り組みました。

【川代プロジェクト】

棚田や農業・農村に関心のある都市住民が気軽に農作業体験ができる場として、千葉県鴨川市の川代棚田を設定し5年目を迎えました。「美味しい長狭米作り体験」をキャッチフレーズに、棚田オーナー制の行事に合わせ、現地集合方式で、地元の農家の皆さんやオーナーさんと交流を図りながら行いました。田植え29名、稲刈り12名の皆さんに



参加いただきました。また、新たにゼンリンデータコム(株)の入社2～3年目の社員を対象に農作業体験研修を受け入れ、5月13日に田植え、8月30日に稲刈りで延べ40名の研修を実施しました。収穫米の頒布は、研修体験の受け入れもあり、完売することが出来ました。

【恵那地区・棚田ビオトーププロジェクト】

棚田ビオトープ田植え(21名参加)、こどもビオトープ観察会(12名参加)、稲刈り(3名参加)、ヤマアカガエルの卵塊調査「かえるの卵を探そう！(第13回)」(12名参加)を実施。現地保存会の事務の方の声掛けもあり、地元の子供たちが参加してくれています。

【石部プロジェクト】

8年目の「昔ながらのお米づくり体験」は例年と変わらず終わることができました。ただ、ここ数年の新規体験者の減少で、常連参加者の負担が大きくなっており、管理田の縮小やイベント開催数の削減などを検討せざるを得ないという意見が寄せられています。そんな中、2019年度の新米が第1回玄米食味コンテストのグランプリを受賞し、8年間のプロジェクトでの大きな成果となりました。

【入門・活動紹介イベントなど】

2019年度も新宿区の子供環境学習イベント「まちの先生見本市」に出展しました。会場は富久小学校。棚田のブースでは、紙芝居や脱穀作業などを通じ、子供たちと一緒に米作りの大切さを学びました。約60名の訪問者がありました。



【旧暦棚田ごよみプロジェクト】

本年は1100部印刷し、864部を販売しました。毎年平均して900部ほど販売しているのですが、100冊増刷した分を販売しきれず150部ほど残ってしまいました。

【棚田NAVIプロジェクト】

2019年6月からサイト（全国棚田[千枚田]検索サイト）の構築作業を開始。10月オープン予定でしたが、諸事情により2020年春のオープンとなりました（掲載箇所約50地域）。なお、棚田百貨堂（棚田オーナー募集地域紹介サイト）および棚田写真館の情報は「棚田NAVI」の中に組み込まれています。

企業・団体向けの普及啓発事業

会に寄せられた相談への対応や、法人会員のCSR活動のフォローなど、限られた人員の中で活動を継続しました。

【CSR活動サポート事業】

象印マホービン(株)と協働し、ライスマイル・プレゼント米（棚田7地域 x 2kg x 10個）を象印社の棚田啓蒙に提供しました。また同社の関西地区における現地活動として、千早赤阪村の棚田で田植えと収穫の体験作業を実施しました。各々15家族60名の参加者で賑わいました。



組織運営について

インターネットの普及でさまざまな情報が手軽に入手できるようになり、一方でオーソドックスな会員制度の維持はなかなか難しい時代ですが、安定的な事務所運営の維持とNPO法人としての基準に則った組織経営に努めました。

【広報・Web】

会報の特集で「重要文化的景観」、「農水省の棚田カードの取り組み」、「棚田振興法」などを取り上げ、棚田のホットな話題をリアルタイムで伝えることができました。Webは、エコプロ・日本の棚田共同展示コーナーサイトのリニューアルを行ったほか、更新業務に務めました。